

咲くまで待とう庭の花

松田 奈保子 大阪府豊中市 五十五歳

我が家の息子は個性の範囲を飛び越えたのんびり屋。せっかちな私は一日に何度「はやくしなさい」を叫んできただろう。そしてイライラとため息の日々。そんな時、あじさいの鉢植えを買ってきた。花が終わる頃、庭の隅っこに挿し木を試してみた。植物を育てることは苦手で上手くいったことがない。でも、大好きな花で挑戦してみようとふと思いついた。すると、みるみるうちに瑞々しい緑の葉をつけ株は大きくなった。初めから大成功と、一人ほくそ笑んでいた。毎日の水やりが楽しみになった。数か月たった春。だんだん状況が怪しくなってきた。葉は相変わらず立派。だけど、つぼみが全くない。これでは花が咲くはずがない。肥料や水やりなど工夫したが効果は無し。どうしたものかと思案したが仕方がない。味気ない水やりが続いた。翌年も、その翌年も同じだった。もう諦めよう。抜いて別の花を、という考えが頭をよぎる。しかしあまりに元気な葉の前に決心はつかなかった。諦めかけた八年目の春。小さなつぼみをみつけた時は目を疑った。それも一つではなく、六つも。それから遅く成長し、艶やかな赤紫のあじさいが梅雨の庭を彩り豊かにしてくれた。成人した息子は今夏、小さな頃からの夢を追い、新たな世界に飛び出した。もう早くしろとは言わないでおこう。気をもみながら、そして楽しみながら気長に応援し続ける。それでいい。